

推しの戦国大名を探せ～戦国花押集～

(1) 八木家文書 戦国花押集とは

「八木健次家文書」に伝来した大変珍しい史料です。**戦国時代から近世初期の武将・大名の書状から差出の部分を取り、継紙に貼付した史料**です。印判はなく全て花押です。点数は180点。連署の花押があるため重複を含めて185名分あります。寸法は縦30.0cm、横557.5cmと巨大な史料です。なぜこのような史料が作られたのかは不明です。観賞用、お手本、古文書の真贋（しんがん）の判定用、などが考えられますが、決定打にかけます。大まかな構成として前半は戦国期の大名・武将と近世初期の大藩の外様大名が多く集められており、今回の大河ドラマに出てくる**足利義昭・石田三成・織田信孝・毛利輝元・藤堂高虎・前田利家**らの花押も見ることができます。

なお剥離の危険があるため、複製による閲覧となっています。

(2) 花押とは

花押とは平安中期以降にあらわれた署名のことです。自己の名乗りを草書体で書いた場合を草名（そうみょう・そうな）といい、草名がさらに判読できない程度に図案化されると花押と呼ばれます。

明治6年（1873）には、実印のない証書は裁判上の証拠にならない旨の太政官布告が発せられ、花押はほぼ姿を消し印鑑が取って代わることとなりました。ただし政府の閣議における閣僚署名は、明治以降も花押で行うことが慣習となっており、現在も続いています。

No.1 戦国花押集 八木健次家文書 (P09702 1593) ※複製による閲覧

1



2



3



4



